

学びのシステムを問い、対話で社会を編み直す

—公民館研究を原点に、共創的な学習の場を探つて—



さとう 智子

東京大学教育学部卒業、東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授等を経て、2025年より現職。専門は教育学（教育行政学、社会教育・生涯学習研究）。主著として『学習するコミュニティのガバナンス：社会教育が創る社会関係資本とシティズンシップ』（明石書店、2014年）など。

社会教育学への関心から 研究者の道へ

—教育に関心を抱くようになったきっかけを教えてください

両親が教員という家庭環境もあり、幼い頃から教育は身近な存在でした。大学進学時は将来の進路に迷っており、特定の専門分野に限定せず幅広い学びを得られる東京大学に進学しました。教養課程で受講した比較教育学の授業で、教育学には、学校での教授法だけでなく、制度や政策から教育の在り方を問い合わせる視点があることを知り、興味を持ちました。

さらに、大学3年次に教育学部に進学した後、社会教育・生涯学習の研究分野に博士課程では公民館を主な対象としつつ

初めて出会いました。当初、社会教育への関心は高くなかったのですが、「生涯学習」という概念の下、学校を包摂した「社会」の視点から教育を捉えられると

ころに魅力を感じました。学校で起こっているさまざまな問題の多くは、学校単独で解決するのが難しいと感じていたことも、影響したと思います。

「公民館」を入口に、社会的に 学習を支えるシステムを研究

社会教育のガバナンスを研究しました。修士課程まで進路を決められず悩んでいましたが、共に学ぶ院生の「仲間」からの刺激と支援に恵まれたことが、研究を続けられた大きな理由だと思います。

—

— 大学院に進んで研究を続けた理由を教えてください

現在の研究テーマについて教えてください

私の研究では、学習を個人的な「知識獲得」ではなく、社会的な「参加」の過程と捉えています。どんなに懸命に教科書で英語を学ぶよりも、日常的に英語を話す環境がある方が英会話の上達が早いように、学習はコミュニティに埋め込まれて生じています。既存のコミュニケーションの境界を越えるような学習機会をどう創発し、そのための社会的ネットワークをどう構築するか——。そのプロセスにおける対話的コミュニケーションの役割と方法論を探求しています。

大学院生の時から続いている「公民館」研究ですが、これは、施設そのものの分析に留まりません。社会教育は、その性質上、学校教育と比べて制度的な縛りが緩く、各地方自治体の歴史や政策によって非常に多様です。「公民館」は、教育行政の「境界」を考察するための恰好の対象でした。その研究の先に見えてきたのが、学びは教育行政の中だけに閉じて生じるものではないということです。

この研究を通して「ハードウェアとしての施設があるだけでは、市民の学習の実質は保証されない」という気づきを得ました。施設の名称や制度的な位置付け以上に、人的・ソフトウェア的な側面が学びの成果を大きく左右します。つまり「公民館」というハコそのものよりも、教育と社会をつなぎ、産官学の連携・協働を前提とした、学習を社会的に支える「システム」や「プラットフォーム」の在り方が重要なのです。

対話と共創による学びの プラットフォーム構築をめざす

現在の研究の課題をお聞かせください

旬な本学研究者のビジョンや研究内容、実際に取り組む産官連携プロジェクト、研究アクティビティや成績の最新Newsを発信しています。
ぜひ、ご覧ください。



中大の研究をもっと知りたい方に！



中央大学の研究と社会を結び、
産学官連携を推進する
情報発信オンラインプラットフォーム

旬な本学研究者のビジョンや研究内容、実際に取り組む産官連携プロジェクト、研究アクティビティや成績の最新Newsを発信しています。
ぜひ、ご覧ください。

現在、他大学の先生方とチームを編成し、インクルーシブな生涯学習プラットフォームの構築をめざして、内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」のプロジェクトの一部に、参加しています。

私にとっての最大の挑戦は、異分野の過度に依存せず、持続可能な運営体制および事業モデルの構築にも取り組む必要があると感じています。

対話的・共創的な学習が、社会のあらゆる場面で当たり前のものとして実践される文化を醸成することが私の願いです。日々幸せに生きていく上で、人間関係のトラブルは、コミュニケーションを通じて起因しているように感じています。

メッセージをお願いします

学生の皆さんには、自分自身が情熱を傾けられる対象や課題を持つてほしいと

専門家とのコミュニケーションと合意形成です。異なる学問的背景を持つメンバーでは、言葉の使い方や物事の捉え方に相違があり、共通理解の形成には多大な時間とエネルギーを要します。ですが、この困難さこそが「社会的な分断」の要因でもあり、これを乗り越えようとするプロセスも重要な研究対象だと捉えています。そして、このコミュニケーションの難しさを克服するのに必要なのが「教養」だと痛感しています。ここで言う「教養」とは、相手の持つ価値観や文化的背景を理解・尊重した上で、建設的な対話を可能にする共通基盤であり、専門分化が進んだ現代社会において不可欠な要素です。

一方で、実践の持続可能性を担保する資金調達も大きな課題です。特に教育分野の活動の多くは、公的資金に依存しがちです。しかし活動を社会に実装し、自律的に継続させていくためには、行政に

一方で、実践の持続可能性を担保する資金調達も大きな課題です。特に教育分野の活動の多くは、公的資金に依存しがちです。しかし活動を社会に実装し、自律的に継続させていくためには、行政に

個性を引き出し、挑戦を応援する
学びの場を提供するために

学生を指導する上で、心掛けている
ことがあれば教えてください

ただ、自分自身の考え方・意見・アイディアを持つというのは、簡単なことではありません。それを可能とするためにも、年長者・年少者を問わず多様な人々とコミュニケーションを図って、できればグローバルな世界を体験しながら、感性を磨いてほしいと願っています。

専門家とのコミュニケーションと合意形成です。異なる学問的背景を持つメンバーでは、言葉の使い方や物事の捉え方に相違があり、共通理解の形成には多大な時間とエネルギーを要します。ですが、この困難さこそが「社会的な分断」の要因でもあり、これを乗り越えようとするプロセスも重要な研究対象だと捉えています。そして、このコミュニケーションの難しさを克服するのに必要なのが「教養」だと痛感しています。ここで言う「教養」とは、相手の持つ価値観や文化的背景を理解・尊重した上で、建設的な対話を可能にする共通基盤であり、専門分化が進んだ現代社会において不可欠な要素です。

専門家とのコミュニケーションと合意形成です。異なる学問的背景を持つメンバーでは、言葉の使い方や物事の捉え方に相違があり、共通理解の形成には多大な時間とエネルギーを要します。ですが、この困難さこそが「社会的な分断」の要因でもあります。そこで、このコミュニケーションの難しさを克服するのに必要なのが「教養」だと痛感しています。ここで言う「教養」とは、相手の持つ価値観や文化的背景を理解・尊重した上で、建設的な対話を可能にする共通基盤であり、専門分化が進んだ現代社会において不可欠な要素です。

〈論文紹介〉

『社会関係資本――

現代社会の人脈・信頼・コミュニティ』

(ジョン・フィールド著、明石書店)

「社会関係資本」という概念を起源から紐解き、人脈や信頼が持つ正と負の影響力、デジタル時代の新たな動向も踏まえ全像を描き出す入門書。翻訳を担当。



『学習するコミュニティのガバナンス： 社会教育が創る社会関係資本と シティズンシップ』(明石書店)

社会的格差・排除を乗り越え、複雑な社会問題の解決に取り組むアクティブラーニングによるガバナンスを理論的・実証的に描き、公教育としての社会教育の効果と課題を示す。

